

地域との協働、小中連携を生かした教育活動の充実

一絆を育む学校づくり推進事業を通してー

日進市立日進北中学校

1 実践のねらい

- (1) 異世代の人との交流において、専門的な知識や技術を習得したり、学習してきたことを教え伝えたりする活動を通して、世代を越えたよりよい地域社会の実現を目指す生徒を育成する。
- (2) 自分を取り巻く地域の清掃活動に取り組むことにより、よりよい環境を目指し、積極的に地域社会に働きかける生徒を育成する。
- (3) 異世代の人との交流、触れ合う時間を設定し、「生きる力」の実践の場を地域社会ととらえ、災害時の対応、将来の街づくり等においても貢献できる生徒を育成する。

2 実践の内容

本校は、名古屋市に隣接した新興住宅街にあり、人口増加に伴い昨年度4月に竹の山小学校と共に開校した日進市内では初めての小中併設校である。近隣には保育園や大学も多く、異世代交流で連携しやすい恵まれた環境にある。目指す生徒像は、異世代の方々から指導を受け、習得したことを生かして近隣の地域や異世代の方々に積極的に働き掛けることができる中学生とした。その手立てとして、本校で取り組んでいる異世代の方々との交流する行事や近隣地域に働き掛ける行事を通して、実践を積み上げていながら絆を育んでいきたいと考える。

本事業の「異世代交流会議」では、地域と協働した取組、隣接する小学校や保育園と連携した取組等について、隣接する小学校の児童、保育士、地域の自治会関係者の皆さんからそれぞれの立場でアドバイスをいただいた。それらを生かし、以下の活動に取り組んだ。

(1) 地域清掃ボランティア活動

一学期終業式、下校後の午後2時から、美化・環境委員会が計画した地域清掃活動を行った。総勢126名の生徒が、学校周辺と岩崎台4、芦廻間地区内のゴミ拾いや草取りに汗を流した。暑い中、集中して活動し、ゴミや草をいっぱい集めることができた。今回は地域の大切さを伝えることをねらいとして、活動前の開始式において行事の趣旨を伝える機会を設定した。

美化・環境委員の感想

「落ち葉や空き缶などのごみが結構落ちていたけれど、終わったときにはほとんど無くなっていました。100人以上の人が1時間費やした甲斐があったと思いました。全校生徒の3人に1人以上の人が参加してくれてうれしかったです。」「僕は、あまり多くの人には集まらないだろうと思っていましたが、当日はとても多くの人が集まって、よく活動していました。地域の方たちにあいさつしている人がたくさんいて、とてもよい気持ちになりました。」



清掃の趣旨を話す委員長



校区内の通学路を掃除する様子

(2) 近隣の保育園で行う保育園実習

3年生が北部保育園で保育実習を行った。家庭科の授業の一環として、昨年の3年生もお世話になった。園児のかわいい笑顔に出会い、最初は緊張していた北中生も自然と優しい表情になった。園児と触れ合うことで、3年生にとってはいつもと違った学びがあった。今回の保育園実習では、園児と共に活動する機会をもつことで幼い子どもの特徴や成長する過程で必要なことを学んだり、年少者に対して中学生がとるべき態度を考えたり、同じ地域に住む年長者としての使命感を感じさせたりする貴重な場となった。



保育園実習の様子

保育園実習後の生徒の感想

北部保育園にご協力いただき、家庭科の授業として、クラスの人々と一緒に訪問しました。はじめはとても緊張していましたが、少しずつ園児たちと笑顔で接することができるようになりました。

北部保育園の園長先生をはじめ、多くの先生方、園児のみなさん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(3) 中学生が小学生へ「読み聞かせ」

2学期に日進北中学校と竹の山小学校の図書委員会が「どんぐり読書週間～秋の図書館祭り～」を行った。1学期に引き続き今年度2回目の読み聞かせを行った。日進北中学校図書委員が朝読書の時間に竹の山小学校3年生の教室で、図書ボランティアの生徒が昼放課に竹の山小学校1年生のフリースペースで、それぞれ読み聞かせをした。今回も、小学生が真剣に中学生の話に耳を傾けてくれた。

図書委員の生徒の感想

僕は、小学生に読み聞かせをするのが初めてだったので、大きな声で読むことや感情を込めて読むことができるかどうか不安でした。しかし、練習を重ねていくうちに自然と不安はなくなり、うまく読めるようになってきました。本番では緊張したけれど、小学生も静かに聞いてくれてうまく読むことができたのでよかったと思います。今回の読み聞かせはとても良い経験になりました。



中学生が小学生に読み聞かせをする様子

3 実践の成果や課題

本校は開校して2年目の新しい学校である。今回の実践で紹介した取組以外でも、近隣地域に積極的に働きかける場を設定したり、異世代の方との交流を数多くする機会を設けたりしている。実践の成果としては、絆を育む推進事業を通して、他の人の役に立ち、他の人から認められる経験を積むことができ自己有用感につながった。実践の課題としては、まだ異世代の方々と接することを不安に思っているところがある。今後は、さらに異世代の方々との実践の場を増やしながら、地域との協働、小中連携を生かした教育活動の充実に取り組んでいきたいと考えている。